～市民がつくる～
三木市男女共同参画センター情報誌

こらぼーよ

こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
（共同・協働）と
～しようよ の組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第51号 2020・冬

もっと父親も子育てに参加することが当たり前の社会に…

性への配慮と集客　～献血ポスター炎上に思ったこと

初めての子育てに寄り添う「50年前の育児書」

身近な生活に溢れる「名もなき家事」が話題に！

あなたの「時短家事」、教えてください！

今後の男女共同参画センター主催の講座

もっと父親も子育てに参加することが当たり前の社会に…

11 月中旬、高校生新聞に書かれた「両親が共働きで、寂しい思いをした高校生の女の子が『子どもの権利を守ってほしい』と訴えた」という記事に目を引かれました。その記事には「女性活躍と言われているけれど、母親が働くことは子どもが犠牲になる」といったことが書かれていました。確かに今の労働環境では両親が共働きであれば子どもが寂しい思いをすることがありますが、それは母親が働くことが問題ではなく、父母どちらもが仕事に追われて子どもにかかわることができないことが問題なのではないでしょうか。この記事には「女性活躍で子どもの権利が守られない」と書かれていますが、根本には女性活躍とは別の社会問題が二つ隠されていることがわかります。

記事から見えた社会問題

一つ目は「母親が働くと、子どもを世話する人がいなくなる」と高校生の娘までもが考えているという問題で、これは「育児は女性がするもの」という無意識の役割分担意識です。記事で主張しているとおり、日本は「子どもの権利条約」を批准しており、同条約 18 条にもはっきりと「父母が共同の責任を有する」と明記されています。母親が働くことによって子どもの健全な発育が阻害されるのであれば、それは母親のみの責任に帰してはいけないのです。にもかかわらず、高校生の娘がこのように感じているのは、まだまだ「育児は女性がするもの」という無意識の偏見が社会を覆っているからで、男性が育児に参加しないことに都合のいい口実を与えているといっても過言ではありません。

二つ目の問題は「家庭よりも仕事を優先させるべき」という意識の問題です。本来は仕事も家庭も大切にすることが必要なのですが、日本では高度経済成長の頃のイメージが抜けきらずに、まだまだ長時間勤務することを評価する傾向が残っています。しかし、結婚すれば女性は退職することを前提に成り立っていた高度経済成長期の長時間勤務は、共働きをするには極端に支障をきたします。ワークライフバランスを整えて仕事と家庭を両立させることが男性にも女性にも求められているのです。

子どもの権利を守るために必要なこと

女性活躍が叫ばれますが、高度経済成長期の男性の働き方を女性がするようになっても社会はうまくまわりません。今回の高校生新聞に書かれていたように、寂しい思いをする子どもがどんどん増えてしまうなどのしわ寄せが必ず起こります。大切なのは女性が変わることではなく、社会が変わること。男性が育児に参加すれば、今の勤務体制ではうまくいかないことに気が付くのではないでしょうか。今よりももっと男性も女性も育児することが当たり前の社会になって、社会で子どもの権利を守っていけるようになってほしいと思います。

（編集委員：M）

性への配慮と集客 ～献血ポスター炎上に思ったこと

献血ポスターに胸の大きな女性のキャラクターが描かれていることで炎上していたのをご存じでしょうか？日本赤十字の献血の PR ポスターに描かれた大きな胸を強調させた女性のイラストが不適切だと問題になったのです。「胸が強調されすぎ！」とか「表現の自由だ！」とネット上で多くの意見が交わされていましたが、ポスターを起用した側は「若者を集めたかった」とのこと。ちなみに、内閣府による「男女共同参画の視点からの公的広報の手引」を確認すると 5 項目の留意点のうち 4 項目が守られていないため不適切であることがわかります。

献血だけでなく、あらゆる場面で集客の目的のために安易に性的な表現を使っているように思われます。これでは、いつまでたっても女性差別がなくならないのではないでしょうか。人を集めることよりも優先させるべき配慮がある。女性の性がまるで商品であるかのように扱われることのない社会になってほしいものです。（編集委員：M）

「男女共同参画の視点からの公的広報の手引き」の概要はこちら⇒

初めての子育てに寄り添う「50年前の育児書」

この夏SNS上で、医師の松田道雄さんが書いた「育児の百科」という育児書が話題になりました。この本は1967年、つまり今から50年以上前に書かれたものですが、その内容は初めての子育てが「孤育て」「ワンオペ育児」になりがちな現在にこそ必要であると感じました。

例えば、赤ちゃんの便を過剰に心配する親に対して、「赤ちゃんをそだてているので、便をそだてているのではないことを忘れてはならない」とか、あまりミルクを飲まない赤ちゃんの場合は、「少食でもけっこう平和にやっているのだから、ひとつの個性なのだと思って、いらいらしないことだ」など、初めての育児に奮闘する親の不安に寄り添い、安心感を与えてくれます。

実は私自身、この育児書を出産祝いに友人からプレゼントされ、第一子の子育て中は大いに救われたひとりなので、この夏話題になっていたことをとてもうれしく思っています。この本の中で今でも覚えているのは、「よく泣く赤ちゃん」の項の、赤ちゃんが泣いてばかりで育児にいら立っている母親の例を取り上げたこの部分。

「そんなときに父親から『君は育児がへただ』などと言われると死にたくなってしまう。だが一生泣いている人はいない。きっとなおると楽観していい」

このもっともなくだりは私にも夫にも祖父母にも大ヒットで、笑いながらも松田先生の頑張る母親への愛情を感じ、父親の子育てへの関わり方への適切な助言に脱帽したのでした。

「育児の百科」には「父親になった人に」という項もあります。

「赤ちゃんが帰ってくる。君もいよいよお父さんだ。家庭のお父さんである君に一言いっておきたい。君は年々200人の母親が子殺しをすることを知っているか。（中略）以前の大家族の時代には、古い世代がそばにいてくれた。いまは若い母親がひとりでせおわねばならぬ。父親が手伝わなかったら母親はせおいきれない。子殺しをした母親のおおくが、育児に協力しない夫をもっていた」と、強い言葉が使われています。

この本の全体には、核家族化が進んだことにより子どもを育てる責任を一手に引き受けなければならなくなった現在の母親たちに対する「大丈夫」「もっと肩の力を抜いていい」というような温かいメッセージと、かつてよりも子育てに関わる必要性が増している父親に対する「こうやって母親と一緒に子育てして欲しい」というエールが込められているように思います。

徹底して子どもと両親、特に母親の立場に立ったこの育児書は、これからもたくさんの家庭に愛されて読み継がれていくことでしょう。（編集委員：A）

身近な生活に溢れる「名もなき家事」が話題に！

最近、ハウスメーカーの広告や書籍などで「名もなき家事」が話題になり育児・家事の概念が時代の流れを受けて変わりつつあるようです。

以前、家事を家事労働とし時給換算するなどありましたが、もっと身近に自分の出来ることを自主的に取り組む（男女共同参画）をテーマに提言されているように思います。書籍の著者は妻の出産をきっかけに育休を取得し、そこで感じた家事、育児の大変さを「授乳以外は男性でも出来る」「名もなき家事が多すぎる」などと表明し、「名もなき家事」の見える化に挑戦されたということです。例えばタッパーのフタと容器を正しく組み合わせる家事など…細やかな視点を価値として認めてもらえることは幸せですよね！

私たちの身近にも「名もなき家事」ありますよね。トイレットペーパーを購入し補充すること！洗濯物は洗濯機に投入する前に確認（色落ち、表裏など）、干す、取り入れ、たたむ、片付けるまで！等々大変ですが、家族を思う細やかな行動、思いやりが認められることで日常生活は変化していくと思いますし、変化させないといけないと思いますね。（編集委員:T）

あなたの「時短家事」教えてください！

去る９月に開催された三木市男女共同参画センター主催の「女性のための働き方セミナー」の中で、時間に制約のある中で物事をこなす力＝「段取り力」や「時短力」が必要とされる家事育児について、参加者が工夫していることを出し合う場面があり、とても盛り上がりました。

あまりの盛り上がりに、「『時短家事』だけを取り上げたアイデアシェアの会をしてみたらどうか」という声が上がり、ついに開催決定しました！

講師の先生曰く、「時間配分はエネルギー配分」とのこと。効率よく家事をする工夫を皆さんで共有し、持っている時間・エネルギーを本当に自分がやりたいことに費やしましょう！

（編集委員：A）

２月 15 日（土）
10:00～11:30

三木市男女共同参画センター主催

時短家事 アイデアシェア会

場所 ： 教育センター3 階 セミナー室2

※事前申込みが必要です。

――――今後の男女共同参画センター主催の講座――――

テーマ	講師	日時	会場
自分らしい生き方って？ ～多彩な性の存在と、生き方の尊重～（※）	仲岡　しゅんさん （弁護士）	1月31日（金） 19:30～21:00	教育センター
男らしさ・女らしさはつくられる ～メディアが及ぼす影響～	家島　明彦さん 大阪大学キャリアセンター 副センター長	2月5日（水） 10:00～11:30	口吉川町公民館
幸せってなんだっけ？ ～命と心輝かせ～	島田　妙子さん （一財）児童虐待防止機構 オレンジCAPO理事長	2月9日（日） 10:00～12:00	青山公民館
男女共同△（参画）は〇（まーる）くネ。	三遊亭楽団治さん	2月18日（火） 13:30～15:00	中央公民館

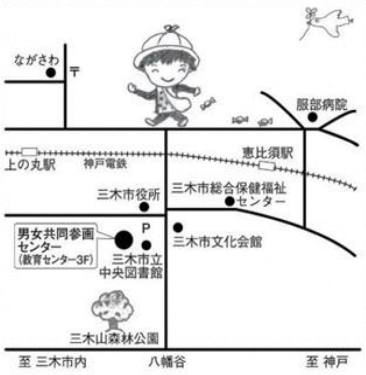
※は事前申込みが必要なセミナーです。

三木市男女共同参画センター
愛称　“こらぼーよ”

三木市福井 1933-12
三木市立教育センター３階

TEL＆FAX：0794-89-2331
開館日時：月曜～金曜　９時～17 時
（※祝日を除く）

企画・編集：情報誌“こらぼーよ”編集グループ
発行：三木市男女共同参画センター



こらぼーよ　三木市

―――❄ 編集後記 ❄―――

冬号から、編集委員に加わりました。70 代４人の孫のばあちゃんです。

趣味は、畑の畝の間に座りこんで、せっせと草を引きながらいろいろな夢想をすること、それから、切ない愛の韓国ドラマを観ること。

私の周囲の高齢者は、辛い過去を乗り越えてきた方が多いのです。何故そうなったのか？女性の辛さ、生きにくさを次の世代に残さないために、私達はどうすればいいのか？

多くの方の知恵を借りながら、そんなことを一緒に考えていきたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いします。

（新編集委員：K）